

第4章 英語の音声について

英語の単語の発音をきちんと身につけるためには、辞書の見出しに載っている発音記号を全て覚えることが重要である。また、英語の単語には、強勢と呼ばれる、強く発音する部分があり、これも個々の単語を覚える際に是非とも確認しておくべき要素である。さらに、単語どうしが連なって句や文を形成したとき、個々の単語は必ずしも「独立して」発音されるわけではなく、続けて発音されることによってある音が異なる音に変わったり、脱落してしまうことがある。こういった英語の音声についての知識は、英語の文章の音読の際に重要であるだけでなく、リスニング・スピーキング能力を伸ばすための助けになる。

1 発音記号

日本語と同様、英語の音声は大きく母音と子音に分かれる。母音とは、日本語の例で言うなら、「か」(ka)に含まれる「あ」(a)の音、「み」(mi)に含まれる「い」(i)の音を指し、子音とは、「か」の“k”の音、「み」の“m”の音のことを指す。発音記号の全てを母語話者並みに「完璧に」発音できるようになることは困難を伴うが、少なくとも日本語の音声とかなり違う音に関しては、できるだけ身につけるよう努力してもらいたい。

A 母音

(1) 短母音

(a) [ɑ]/[ɒ]

＜アメリカ英語＞ ([ɑ])

日本語の「あ」よりも口を縦に広げるように発音する。「あ」と「お」の中間のように聞こえる。

＜イギリス英語＞ ([ɒ])

アメリカ英語よりも日本語の「お」に近いが、「お」よりは口を広く開ける。

(例) hot, not, pot, lock, knock, rock

(b) [æ]

＜アメリカ英語＞

この記号が表すように、「あ」と「え」の中間の音だと思えばよい。「あ」を発音するつもりで、口を横方向に開けるとよい。

＜イギリス英語＞

イギリス英語では、アメリカ英語のこの音が[ɑ]に対応することがある。

(例) dance, half, can

(c) [ʌ]

「あ」にほぼ同じ音だが、口をあまり開けずに発音する。

(例) but, cut, duck, luck dove, love, done, one
blood, flood enough, tough

(d) [ɪ]

「い」よりもやや「え」に近い音。口を少し縦に開き気味にして発音する。

(例) it, hit, sit, in, kick, miss

(e) [u]

「う」よりも口先を狭く丸めて発音する。やや「お」に近くなる。

(例) book, look, good bull, full, put
should, would

(f) [e]

「え」にほぼ同じだが、やや口を縦にあける。「え」にわずかに「あ」を加えるようなつもりで発音する。

(例) met, pet, bed, end neck, wreck

(g) [ə]

口をあまり開けずに発音する。「あ」でも「お」でも「う」でもないあいまいな音である。単語の強勢を受けない部分に典型的に現れる。

(例) about, ago, police, lemon

なお、綴りで“r”が続く場合は[ər]になる。

(例) sister, teacher, foreigner